

## 福祉対策会議報告(7月7日)

8月は休会のため、7月の報告。

1. 「手話言語法(仮称)」の早期制定に関する意見書は、都議会議員からの提案の形で、厚生委員会に提出された。それを受け、6月25日の本会議では、全党提案という形で無事採決され、東京都議会は、国会及び政府に対して意見書を提出した。
2. 6～7月の「手話言語法行動月間」について、5月17日の区市会長会議で説明した。  
25日の東聴連評議員会でも改めて説明し、採決状況一覧を配布した。
3. 手話言語法推進に伴う学習会について、派遣依頼があり、福祉対策会議で対応する。
4. 8月21日の地域担当者会議の招集文案の確認をした。
5. 情報文化センターから移管の16<sup>ミ</sup>映画の貸し出しについては、新しい映写機の購入ができたので、貸し出し条件を会長会議で暫定発表した。

(文責 高田)

## 自立支援センターの講習会

2014年度後期 素晴らしい手話の世界への招待 募集開始!  
2014年10月～2015年3月までの講座、下記6クラスの募集が始まりました!

皆様のご応募お待ちしております。

## ①小菌江クラス (木曜13時30分～15時30分)

講師：小菌江 聡 氏

「ろう者に通じる手話をめざそう！」

対象：手話学習歴2年程度 (全15回)

## ②河合クラス (水曜18時30分～20時30分)

講師：河合 祐三子 氏 「表現力を磨こう！」

対象手話学習歴3年程度 (全10回)

## ③アトムクラス (月曜13時～15時)

講師：砂田 アトム 氏 「手話ルーム」

対象：手話学習歴3年以上 (全10回)

## ④庄崎クラス (水曜13時30分～15時30分)

講師：庄崎 隆志 氏 「手話言語遊学のススメ」

対象：手話学習歴2年程度 (全15回)

## ⑤井崎クラス (木曜18時30分～20時30分)

講師：井崎 哲也 氏 「手話をエンジョイする」

対象：手話学習歴3年以上

## ⑥ろう者ゲストクラス (金曜13時30分～15時30分)

講師：都内及びと近辺のろう者

「沢山のろう者と出会い、お話をきこう！」

対象：様々なろう者の手話を読み取ってみたい方(全15回)

## ●会場：東京聴覚障害者自立支援センター

2階多目的室 (渋谷区東1-23-3)

## ●参加費：①④⑥：3万円、②③⑤：2万円

受講決定後、決定通知に記載されている口座に振り込みをお願いします。

## ●申込み方法：往復はがきで下記4点をご記入の上、9月19日(金)必着で当センターへ郵送してください。

- (1) 希望コース①②③④⑤⑥ (複数申込み可)、(2) お名前(フリガナ)、(3) ご住所、(4) 連絡先FAX・電話番号 (電話のみの方は明記)

※全クラス、ろう講師担当。手話通訳・要約筆記はつきません。日程は都合により変更する場合があります。

※申込み人数が10人に満たない場合は、開講を見送る場合があります。

## 都サ連一日研修会申込受付中!

日時：10月19日(日)10:00～16:00

場所：ヒューマンぷらざ(港区立障害保健福祉センター)

内容：『ろう者と権利』

山本芙由美氏(Deaf-LGBT-Center 代表)は「性の多様性」について、小嶋勇氏(弁護士、明晴学園監事)は「ろう教育と言語権」について講演していただきます。

(ちらしは、都サ連HP「ダウンロード資料」からダウンロードできます)

当日は、手話通訳の他、PC要約筆記、磁気ループの用意もあります。

お申込みは各サークルの担当者まで。サークルから申し込めば参加費は¥1000です。

たくさんの方のご参加をお待ちしています!

(城南ブロッカー一日研修会実行委員会)

## 広報班の活動報告

### サークル訪問記

～6月30日（月）北里大学手話部～

6月30日（月）18時、北里大学手話部の訪問に、同じく広報班山崎さんの2人で行って来ました。場所は、港区白金の北里大学白金キャンパス。白金高輪や恵比寿などの最寄り駅から、それぞれ徒歩10分強の、薬学部のキャンパスです。正門から、既に女学生10名程のメンバーの待つ教室まで、昨年の学祭の際にお会いできた代表の学生さんに案内してもらいました。

その日の内容は、「かき氷」「扇風機」「プール」など、夏にまつわる単語の学習から、「名前」「あだ名」「夏で連想するもの」「好きな作品(文学/映像など)」をそれぞれ自己紹介と、2班に別れての「仲間全員の全身で“手話表現”を表す」という奇抜なゲームの、三本立てでした。

具体的にどういうゲームかという、あくまで身振りではなく、例えば「神奈川」なら、「2人がジャンプでぶつかり合った(神)あと、3人が頭上に合わせた手をしゃがみながら振り下ろす(川)」といったように、全身で手話表現の手の動きを再現するなかなか肉体的なゲームで、思わず噴き出し笑いながら参加させてもらいました。

薬学部ということもあってか、手話が聞こえない人との意思疎通のためには大切なものという認識が、一般の部員にまで浸透していました。

また都サ連として行事案内をしていた中のひとつ、ヒロカワ企画LR「里亞王(リア)」の公演に、実際に赴いてくれたとの朗報がありました。

最後に、都サ連の紹介パンフレットを配りながら、学祭への出展などがまたあれば案内してほしいこと、また行事案内の行き来だけにとどまらず、お互いの選択肢を増やせるような関わり合いをしていこうと話し、共に帰路につきました。

いろいろな側面への逞しさが光る、北里大学手話部でした。

(文責 広報班 大木)

### サークル訪問記

～7月7日（月）帝京大学手話サークル com&com～

7月7日（月）16:30、帝京大学手話サークル com&com の訪問に、広報班の大木と山崎さんの2人で行って来ました。場所は、聖蹟桜ヶ丘や多摩センターなどからバスも出ている、帝京大学八王子キャンパス。昨年学祭でお会いできたまとめ役の学生さんと落ち合い、案内していただきました。同学内にはもうひとつサークルがあるらしいのですが、都サ連として連絡が取れているのは com&com だけです。毎週月曜、水曜、金曜の3回の開催で、月曜が一番集まりが良いとのこと。その日は15名程の参加がありました。またそのほとんどは1年生の学生さんでした。初めて参加した学生さんの自己紹介に続き、都サ連の委員として団体紹介や訪問の目的などを含めた自己紹介をさせてもらい、勉強会に共に参加しました。

その日は絵本を使っての勉強会。まとめ役の方が指揮を執り、難聴の学生も無作為に混ざりながら、同じような語句の繰り返す絵本を使って絵本1、絵本2の前編後編とそれぞれグループにわかれ、相談にじっくりと時間を使い、発表をし、ひとまず活動は終わりました。

その日の活動はそこまで思いきや、解散して人数が半分になった後も、先輩勢のゆるゆるとしたアドリブの寸劇「ももたろう」が披露され、その後も「出題者が思い浮かべた物/人物を、みんなで質問をしていき、それが何かを当てるゲーム」が、全員が出題者を経験するまで続けられました。

例えば「Q、物ですか？人ですか？A、物です。」「Q、色は何色？A、赤と緑、ときどき黒。」「Q、食べられる？A、食べられます。」「Q、主にどこで食べる？A、家や砂浜などのイメージ」などの質問と回答を繰り返し、みんなでテーマを当てていくゲームです。（この問答の答えは「スイカ」でした。）全員が答えがわかるまで、じっくり行われました。

さらにそこから解散した後も、残ったメンバーで近くのファミレスに移行し、のんびりと夕食をとりました。

センターまつりや耳の日などの現在も案内している都サ連関連行事だけでなく、地域の身近な催しにも興味があるか訪ねたところ、肯定的な返事が返って来ました。逆に、学園祭での出展などがあればお知らせしてくれるよう、話もしました。

まだ手話を始めて間もない方が多いせいか、手話に対する積極性は控えめながら、だからこそそのんびりじっくり手話を楽しむような、帝京大学手話サークル com&com でした。

(文責 広報班 大木)